

夢を追う卒業生 その3 平成30年9月10日

大学生活が変えたこと

◇今回は、森美咲さん（滋賀県立大学 国際コミュニケーション学科）のレポートです！

はじめに

滋賀県立大学に入学して、高校の頃の自分と今の自分では少しずつ変化が現れました。今回は主に大学とサークルの話を通じて私の生活紹介、変化を伝えます。

大学について

大学入学後は授業の面白さと主体性の大切さを感じています。まず滋賀県立大学ならではの授業を簡単に紹介します。この大学は「人が育つ大学」を目指して専門科目以外に「人間学」や「地域課題科目」、「外国語教育科目」などがあります。「人間学」とは人間・環境・社会・文化を知るために現実の問題に立論してひとつの見解に達するまでのプロセスを追求する科目です。「地域課題科目」では地域の課題を解決するために必要な知識と実践力を身につけ、「外国語教育科目」では言語による国際的なコミュニケーションの能力習得を目指しています。所属学科の科目を学びながら他の分野を学べる環境が用意されていることが滋賀県立大学の面白さのひとつであると感じます。個性豊かな教授らの話を聞く度に視野が広がり挑戦したいことが増えていきます。またグループワークが盛んで初対面の人といきなりグループになることもよくあります。学生側が能動的になって作り上げていく授業は高校の頃とは違う面白さがあります。高校までは自分ができることは限られていると無意識に思ってやりたいと思えることを狭めていたけれど、大学では行動力次第でやりたいことができるという考えに変わりつつあります。機会や知識が色々なところに落ちているため思考の範囲がどんどん広がります。

私が所属する国際コミュニケーション学科では個性が強い仲間が多くいます。国際的なことに関わりたい仲間が集まるため授業中の議論がとても楽しいです。自分と似たような仲間が集まるため大学生活がより楽しくなります。



地域共生論でのグループワーク

サークルについて

高校では部活に入らなかった私ですがサークル活動は今の自分にとって欠かせないものになっています。私はバドミントンサークルと大学生協のサークルに所属しています。他学科の同級生や先輩と仲良くなれます。私は運動不足解消、友達作り、コミュニケーション学科力を高めるためにこの二つのサークルに入りました。学業との両立の心配はありましたが学業、サークル、アルバイト、そして一人暮らしのバランスは上手くとれていると思います。大学生協のサークルでは学生の大学生活を良くするための企画作りをしています。このサークルに入ることのできることでやりたいことの考えが変わりました。楽しいだけでなく将来に生かせる活動が多くあるのでやりがいがあります。



サークルの合宿にて

最後に

大学生活を始めて一番感じたことは1日のおわりがとても早く過ぎることです。高校の頃よりも授業時間は長いのにあっというまです。やりたいと自分が決めたことだから全ての活動に一生懸命になれます。大学の4年間を就職までの時間稼ぎにしたいから目標を明確にして生活したいです。



キャンパスには猫、羊、カモがいます